

群馬県 グループホームベルジ渋川たやの家(ユニット1) 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	渋川たやの家独自の理念をつくり、理念に基づきサービスを提供している。	○	渋川たやの家独自の理念をつくり、その理念に基づき運営していけるよう努めている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時、「今月の目標」として毎日復唱し、実施できるよう職員全員で考え、行動している。	○	理念を根底に日々業務する職員の意識が乏しく感じられ、再確認する必要がある。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	渋川たやの家独自の理念を玄関に掲示し、家族や地域の方に理解して頂いている。また、サービスを提供していく上で、家族や地域の方に信頼して頂けるような事業所を目指し努力している。	○	地域の方や御家族様、入居者の方に参加して頂き、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、渋川たやの家の活動内容などを報告しているが、今後も今以上に行う必要がある。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩の途中などで、近所の人に会った際は、会話をしたり、農園の作業を通じて交流を図っている。以前に比べれば、地域の方に声を掛けていただいている事が増えている。	○	近所の方も仕事をされていたりして、日常的なつきあいはできていない。気軽に立ち寄って頂けるよう、交流機会を今以上に増やしていきたい。地域の方にも気軽に参加して頂けるような行事を検討していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議をきっかけとして、民生委員の方から地域行事へ招待され参加したりしている。(老人会には参加しているが、地域の一連の行事には参加できていない)	○	地域の清掃行事や草取りなどには参加しているが、自治会とのつきあいは、余りできていない。今後、もっと多くつきあっていく必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実際、地域の高齢者等の暮らしに役立つ事などの話し合い、取り組みはできていない。	○	地域の高齢者の方が気軽に立ち寄れる、又、入居者との交流の場にしていけるよう、取り組んでいく必要がある。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	一部の職員のみ理解している様子である。今回の自己評価票は各ユニットで話し合って作成した。	○	全職員が、まず意義を理解できるよう、学習の場を設ける必要がある。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、地域の方に出席して頂き、たやの家のサービスを知って頂くと共に、出席された方からの意見を取り入れて援助している。	○	運営推進会議の議事録を残し、地域行事などを伝えたりもしているが、全職員が運営推進会議の内容を把握し、活かしておらず、今後も継続して運営推進会議の内容を共有していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者は、運営推進会議で来られる事が殆どである。サービス内容で不明な点があれば、その都度、担当者に電話で確認したり、担当者の所に行き確認をしている。	○	開かれたホームでありたいし、困った時は相談出来る、お互いのコミュニケーションの出来る体制を築いていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修として、地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度について学ぶ機会はあるが、理解と活用に乏しい。	○	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度についての講習会や研修へ積極的に参加して理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や講習会への参加は少ないが、資料などで虐待防止について職員で話し合ったりして、虐待防止に努めている。	○	入居者への声掛けなどについて、精神面に影響してしまう事もあり、今後も気をつけ援助する。高齢者虐待防止関連法についても学び機会を増やしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの意見などを取り入れ援助しており、職員へ伝えられるような環境作りに努めている。入居者の方からあまり訴えがない方の場合、御家族様の面会があった後に、家族の方に何かを訴えていないかどうかを確認している。	○ 苦情・要望を聞いた際は、紙面上に残し、改善していけるよう話しあい、取り組んでいく。今後も、苦情共有カードを活用していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や1ヶ月に1度「おたより」として報告をしている。面会時には、状態説明や普段の生活の様子を説明している。職員によって、報告のできる職員、できない職員の差がある。	○ 統一した見解をもって全職員が、定期的に報告できるように努力していく必要がある。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様からの意見や要望については、受け付けた時に、ノートに記載すると共に、翌日の朝礼等で職員全員が把握できるような対応を心がけている。	○ 御家族様などの意見や要望などが、口頭では少ない為、今後アンケートなどを作成し、意見や要望などを収集し、反映させていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を開催し、職員の意見や提案を取り入れ運営している。会議欠席の職員については、用紙に意見を記入して頂き、会議での意見としている。会議以外にも、朝礼時などに、職員の意見を出していただき、反映していけるようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	事前に把握している行事や受診については、職員の人数を確保し運営している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動について、入居者の方に影響が出る事は理解しているが、離職や異動が多い。離職や異動の話が出た際は、本人や代表者と相談し、最小限に抑えられるよう努力している。	○ 異動については、組織で運営している為、防げない面もあるが、離職も含め、同じ職場で長く勤務できるよう、入居者の方に影響がでないよう今後も取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育として、研修センター主催の研修やホーム内での研修を積極的に参加、開催している。	○	研修への参加する機会を増やしたり、ホーム内での研修を増やし、職員の教育、育成に努めていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会の中で、他のホーム職員と交流する機会があり、他のホーム職員からの意見などで、ホームに取り入れられる事は取り入れてサービスの質の向上を図っている。	○	他のホームの見学や業務体験を取り入れて、ホームに取り入れられそうなことなどを学んでいき、サービスの質の向上を図りたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務上の悩み等は、職員同士で気軽に話せる環境でもあり、ストレスの軽減となっている。年に数回、職員が食事会を開催し、親睦を深めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格挑戦など、職員の向上心については、ホーム全体で協力をしている。職員同士でアドバイスをしたりして、勤務している。	○	個々に持っている、意識している向上心が不足している面も見受けられる為、向上心を今以上に持って業務できるようにする。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者との普通の会話の中で、希望や要望などを聴き取り、受けとめ援助している。	○	入居者自身から訴えられない方もあり、様々な工夫をして、その方の不安解消などに努めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時に状態報告を行い、家族からの意見・要望を聴き取り援助している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早めの対応を心がけ、相談に対してできるだけ早い対応、状況に応じた適した対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や入居前の施設職員などから、普段の生活や好き嫌いや環境面などで聴き取り、ホームでできることであれば援助し、極力入居前の生活に近づけられるよう工夫をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と一緒に職員は生活をしており、入居者から学んだり、職員が教えたりして、レクリエーションなどを行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員の力だけでは対応できない面もあり、面会時に一緒になって散歩の付き添いやレクリエーションなどをして、家族との関係を築いている。	○	御家族様に今以上に行事に参加して頂き、共に楽しめる時間や環境を作っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会や外泊・外出時間を自由としており、外出や外泊をする機会も増えている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の中では、数名であるが、自宅近くの知人や友人、昔勤めていた同僚の方などの面会や電話連絡がみられる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者とのレクリエーションや家事援助の際、一人だけでなく複数で行えるよう作業を分担して援助している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後でも、家族より連絡が来る時もあり、退居後も連絡をとったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望や意向を尊重し、できる範囲で個別援助を取り入れている。意思の疎通の困難な方には、日頃の言動を観察し対応している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴や過去の暮らし方を、入居時や面会時など家族から確認したりして援助している。生活暦の中での趣味や特技において、今でもできるものがあれば、取り入れて援助している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の現在行っている事をすべてリハビリとして考え、自力で行える事はしていただけるよう援助している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人等の意見や要望を踏まえ介護計画を作成している。入居の際は、以前いたホームのスタッフからの情報を踏まえて介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護の見直し、状態の変化に応じて、随時見直しを行っている。	○	3ヶ月毎の見直しにしていけるようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活面を重視し、生活上の様子や体調面の変化を具体的に記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わっての「かかりつけ医」へ付き添い(受診の援助)や買い物の同行等の必要な支援は行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議をきっかけに民生委員との交流も増え、外出時(ホーム外での地域行事の参加時)など協力をしていただいている。消防署による防災訓練や地域の中学生の体験ボランティアなどの受け入れなどを行い、理解や協力を得られるよう働きかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望者に応じて、訪問マッサージ(リハビリ)を週2回取り入れている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向がなく、地域包括支援センターとは、殆ど協働していない。	○	意向や必要性があれば、検討していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、家族や本人の希望を尊重している。協力医療機関での主治医の往診が週1回(毎週火曜日)にあり、診察をしていただいている。状態変化の際は、随時電話にて相談を行える。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が認知症についても理解して頂いている。必要に応じて、主治医より紹介していただき、他の病院への受診もしている。	○	職員一人ひとりが、今以上に認知症を理解し、知識を増やしていく必要がある。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム職員に看護職がおり、勤務の日以外にも電話連絡をして入居者の健康管理等を相談をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合は、医療機関と定期的に連携をとり、家族も含めて話し合いを行い、早期に退院できるよう対応している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期や重度化に対するホームの指針を家族に話しており、看取りも経験している。ホームの職員の一部は指針を認識しているが、全ての職員はホームの指針を共有できていない。	○	職員全員が終末期・重度化についての対応の方針を、把握・認識できるよう、話し合いの機会を設けていく必要がある。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホーム看護職を中心に、入居者の状態変化等について考え、主治医の往診時など相談をしている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居の際、転居先のスタッフや家族に対して、入居中の様子や状態、内服中の薬などの説明を行っている。退居時に限らず、入居者が外泊などで自宅に戻る時なども同様に対応をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を守り、さりげない言葉かけや対応をしている。入居者の居室にトイレがあり、プライバシーを損ねず、気軽に着替えをすることができる。	○ 職員1人ひとりが今以上に、意識して取り組めるようになっていく必要がある。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の言葉を傾聴し、入居者に選んでいただいたりする機会をつくり対応している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、その日の天候や一人ひとりの体調、希望等に添って買い物や散歩などの援助を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問美容師により、毎月1回希望者が利用している。入居者の希望を尊重し対応している。入居者の中には、家族と一緒に出かけ、馴染みの理髪店で散髪をされる方や御家族様が美容師であり、ホームに来て散髪をしている方もいる。	○ 訪問美容師の方の対応が中心になっており、本人が行きたい店に行けたり、おしゃれも本人の思い通り対応をしてあげたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状態に応じて、食事形態を変更している。普段の食事以外に外食会やバイキング行事を企画して対応している。食事の準備や片付けなどは職員が中心で行い、入居者の方と一緒に出来る方は一緒に対応している。	○ 入居者の方の好きな物などを栄養士の方に伝えたりして、メニューを考えて頂いているが、入居者の方全員が好きな物を食べられてはいない。職員も検食として、一緒にテーブルで食べてはいるが、一食ではなく、今後検討していく必要がある。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の方の嗜好調査を定期的に栄養士と共に行い、食事メニューに反映させている。バイキング行事の日などは、自分で選んで食事や飲み物を摂取したりしている。おやつについては、決められたおやつ以外に、入居者の希望を踏まえ、手作りおやつとして提供している時もある。	○ 現在、お酒を飲まれている方や喫煙されている方は、いない。以前は、数名希望者がいて、その都度対応をしていた。入居者が遠慮されていることも考えられる為、今以上に希望に添って援助していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握して入居者の方の機能を活かして援助している。	○	リハビリパンツを使用者であっても、失禁の回数などを考慮し、夏場の暑い時期など蒸れての皮膚疾患になってしまう為、予防として日中のみ布製のパンツで対応したりしているが、機能面でトイレ使用が困難な方が増えてきており、おむつ使用者も増えている。おむつ使用者を減らしていけるよう援助していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回のペースで入浴されているが、希望によっては、毎日入浴をされている方もいる。又、皮膚の状態や体調面などを考慮して入浴を検討している。	○	職員の勤務体制により、日中の入浴になっているが、夜間の入浴希望者が出た場合などの対応も検討していきたい。(現在、夜間の入浴希望者はいない)又、入浴時間や回数など、今以上に希望に添って援助できるよう、努めていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間眠れず徘徊などがみられる方は、日中の散歩やレクリエーション等で活動を増やすなどの工夫をしている。眠剤に頼らず、夜間覚醒している方に対しては、話を聞いたりするなどの対応をしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや掃除などの役割意識を持って生活をされている。目標を決め、達成できるよう職員と一緒に共同生活をしている。	○	入居者全員が役割意識を持って出来ていない為、今後、入居者全員が役割を持って生活できるよう援助していく必要がある。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と家族の話し合いで、自己管理できる方には自己管理して頂き、買い物などの時に使っていただいている。	○	お金の管理について、理解が出来ない方が多く、今後も出来る範囲で取り組んでいく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブなど、戸外に出られるような援助を企画して、随時行っている。	○	本人の希望に添えていない面もあり、極力希望に添えるよう援助していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食会を企画して行う時など、家族も参加することもある。時々、家族と本人の希望もあり、家族の対応では車に乗せ降りができない時など、外出場所への入居者の送迎をする事もある。	○	普段行けない場所への外出が少なく、今後、お弁当を持って外出する事などを企画して行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に添って、その都度、電話や手紙の対応をしている。自分で手紙を機能面で書けない方は、口頭で言われた事などを職員が代筆にて対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者の方の面会は、制限がなく、入居者自身が連絡を取りたいなどの希望があれば、連絡をして面会を依頼している。御家族様以外の面会として、知人や友人などの面会回数も多い。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないケアを目指し援助している。	○	身体拘束についての研修等に参加する機会が少ない為、参加する機会を増やしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事故防止の為、家族に説明を行い玄関やユニットの出入り口に施錠をしている。事務所に職員がいる時は、鍵(ドア)を開放するなど、以前に比べ施錠する時間や場所は減ってきている。	○	見守りや職員の連携、意識改革により、今以上に施錠の時間や場所を減らしていけるよう援助する。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の安全面を第一に考え、定期的な巡視や必要に応じて、こまめに巡視をするなどの対応をしている。	○	夜間帯、日勤とは違い職員の目が届かない点があり、今後改善を図っていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品は一時的に外して様子を見ている。状況に応じた対応を心がけている。薬や洗剤、刃物などは保管場所を決めて管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	グループ活動の1つ「事故防止グループ」で、事故防止について定期的に会議を開催し、事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署に依頼し、心肺蘇生法などの講習を行ったり、看護師のアドバイスやマニュアルなどを見たりして、事故防止に取り組んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年に2回は消火訓練や避難訓練をしているが、事業所だけの訓練である。現状として、地域の協力体制は出来ていない。	○	運営推進会議にて地域の方に、災害時の対策として、防災訓練に参加、御協力を依頼しており、今後は、地域の方に参加して頂き、災害対策を行っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族への状態報告の際に、起こりえるリスクも含めて説明をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員の観察により、体調の変化や普段と様子が違う時など、職員同士で情報を共有し、早めに主治医に連絡するなどの対応をとっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎週火曜日(週1回)、主治医の往診時に状態や症状を報告し、医師の指示通り服薬援助を行っている。職員は、服薬の目的や副作用などを理解しての対応を心がけている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員全員が、便秘の原因などを理解できており、入居者の状態を考慮しながら、運動や食事に工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き(入れ歯の手入れ)やうがいを促し、自力で出来る人には促し、見守り援助を行い、自力では困難な人には、職員が行うなどの状態に応じて対応をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を温度盤に記載し、入居者1人1人の状態を把握すると共に、入居者1人1人に適した食事援助をしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎食前にうがいや手洗いを行い、毎食後には口腔ケアを行っている。手すりやソファなどの共有部分は、消毒液を使用した布で拭く等の予防策を徹底している。インフルエンザの予防接種も毎年、入居者と職員が全員実施している。	○	感染症予防について、今後も職員全員で取り組んでいくと共に、研修などにも参加していきたい。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材に関しては、毎週火曜日と木曜日と土曜日に業者より納品となり、2日間または3日間で使いきるようにしている。調理器具についても消毒などを定期的にして衛生面を保っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりにプランターに植えた花や樹木があり、家庭的な雰囲気づくりに努めているが、近隣の方の出入りが少ない。家族や入居者の方には、親しみやすい様子で特に不都合はみられない。	○	ホーム側より、行事などを企画して、地域の方に参加していただける機会を増やしていきたい。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに行事の写真や入居者と一緒に作った作品を掲示している。季節に応じて掲示物を変えている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にはテーブルやソファを設置しており、居室以外にも自由に過ごせる居場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族やご本人に、居室への持ち込みは自由であることを告げてあり、ご自宅や他のホームで使い慣れたもの(ダンスなど)を置ける範囲で持ち込んでいただき、安心して生活できる環境作りを心がけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンを完備しており、換気や温度調整を入居者の状態や季節に応じて行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室トイレ・廊下・浴室等に手すりを設置している。必要に応じて、浴室に手すりを増やしたり、シャワーチェアを状態に応じて購入して使用するなどの工夫をしている。	○	入居者の状態に応じて、今後も手すりを設置したりして、入居者の安全と自立した生活を支援していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者本位で職員は物事を考えているが、入居者の認知症の症状や身体機能などで難しい面もあるが、混乱や失敗を防げるよう、入居者と職員が一緒になって環境をつくっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターを利用して花を植え、水くれや観賞などを入居者と一緒にベランダにて行っている。建物近くに農園を借りており、農作物の収穫なども入居者の方と一緒にしている。	○	入居者の方が、喜んでいただけるよう、回数を増やしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

排泄物の処理方法（新聞紙に使用済みのパットなどを包んで、ビニール袋に入れて処理）により、ホーム内の臭いの解消や入居者の感染予防にもなっている。